

回 答 書

「新潟市地球温暖化対策実行計画（地域推進版）策定業務委託公募型プロポーザル実施要項」に基づき、質問事項について下記のとおり回答いたします。

No	質 問	回 答
1	<p>仕様書 1頁4.業務内容（1）No.1 環境モデル都市アクションプランとの関係整理 （質問内容）</p> <p>新潟市において、環境モデル都市アクションプランとの関係整理をするとのことですが、第3期実行計画についてもアクションプランと兼ねる計画として想定しているのでしょうか。</p>	<p>第3期実行計画については、内閣府が定める環境モデル都市アクションプランとしては策定しません。</p> <p>ただし、新潟市と協議のうえ、内閣府が示す第3次アクションプランの策定ガイドライン※に可能な範囲で準ずるものとします。</p>
2	<p>仕様書 2頁4.業務内容（2）⑤ 気候変動適応策の検討 （質問内容）</p> <p>気候変動の現況と将来予測を調査し、適応策と推進補法の検討・提案とありますが、第3期実行計画について「気候変動適応計画」を兼ねるものとして想定されているのでしょうか。</p>	<p>第3期実行計画のうちの一つの章を「地域気候変動適応計画」として位置付けることを想定しています。</p>

※環境モデル都市 第3次アクションプランの策定ガイドラインを添付

第3次アクションプランの策定ガイドライン

- 第3次アクションプラン（以下、「アクションプラン」という。）は、環境モデル都市として目指す長期・中期・短期の目標と、それを達成するための具体的な取組方針を示すためのものであり、次に示す構成に沿って記述することを基本とする。
- アクションプランの名称は「（自治体名）環境モデル都市行動計画」とする。
- 環境モデル都市はアクションプランの策定にあたり、必要に応じて内閣府との意見交換を行う。
- 内閣府は、環境モデル都市のアクションプラン素案への助言などを通じ、アクションプランの策定を支援する。

アクションプランの構成の基本形

1. 全体構想

1-1 現状分析

1-1-① 温室効果ガスの排出実態等

都市・地域の温室効果ガスの排出実態について、排出総量、産業、民生、運輸等の部門別の排出量、及びその推移について記述し、更にその特徴について簡潔に記述する。

数値については、実績値を入手することが困難な場合は推計値でも可とするが、推計に用いたデータ及び推計方法について記述する。

1-1-② 関係する既存の行政計画

市区町村における、地球温暖化対策法に基づく地方公共団体実行計画、環境未来都市やSDGs未来都市に関する計画、エネルギー計画や交通計画、総合計画や基本構想等の低炭素社会の実現に向けた取組に関係する行政計画と、アクションプランの関係性について記述する。

1-2 削減目標等

1-2-① 削減目標

都市・地域の将来像、長期（2050年前後までの期間。以下同じ。）の温室効果ガスの削減目標とその中間的な目標としての中期（2030年前後までの期間。以下同じ。）及び短期（アクションプランの最終年までの期間。以下同じ）の温室効果ガスの削減目標を記述する。また、参考値として、基準年の排出量及び直近の排出量を記述する。

目標については都市・地域の特性や取組内容に応じ、総量目標、部門別目標、原単位目標等適切なものを選択して設定し、設定の考え方について記述する。

1 自らの都市・地域内での削減目標の他、国内外の他地域においても温室効果ガ
2 スの削減効果の波及が認められる場合には、それも目標とすることが可能とする。

3
4 削減見込の算定にあたっては、『地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域
5 施策編）策定マニュアル』等を参考に、自治体独自の要素があればこれを加味
6 して行うものとする。その際、排出係数については、毎年変動する排出係数の
7 外部要因を排除し、都市の取組による温室効果ガス排出量の影響を把握するた
8 め、基準年における排出係数を使用すること。

10 1-2-② 削減目標の達成についての考え方

11 1-2-①に掲げる削減目標の達成に向けた中期の取組方針の考え方を記述
12 し、アクションプラン全体の枠組みを示す。長期の取組方針の考え方を示すこと
13 が可能であればそれについても記述する。

14 その際、将来の人口の増減や経済動向等の推計データを踏まえた排出量のトレ
15 ンドや、取組による削減の程度を記述する。

17 1-2-③ フォローアップの方法

18 取組全体の進捗について、可能な範囲で定期的な温室効果ガスの排出状況の把
19 握、それを踏まえた取組の見直し等フォローアップの方法について記述する。

20 取組の内容に応じて温室効果ガスの排出状況の把握の他、公共交通機関の利用
21 者数、住宅・建築物の省エネルギー化、太陽光発電システム等の設備の普及状況、
22 街区・地区レベルでのエネルギーの有効活用状況、緑地の整備状況など、排出削
23 減に向けた取組の進捗を検証するため、中長期的にフォローアップすべき指標等
24 を設定し、状況を把握することが適切と考えられる場合には、その指標や把握方
25 法についても記述する。

27 1-3 地域の活力の創出等

28 取組の実施により期待される都市・地域の活力の創出や住民の生活の質の向上、
29 地域のアイデアや住民を巻き込んだ取組、取組の国内外に向けた普及・展開等、
30 地球温暖化問題への対応にとどまらない幅広い効果について記述する。

32 2. 取組内容

33 2-1-① 取組方針

34 「1-2-②削減目標の達成についての考え方」に記述した「中期の取組方
35 針の考え方」を踏まえ、中期の取組方針（長期の取組方針の考え方の提示が可
36 能であればそれについても記述する。）とアクションプランの計画期間内に具体
37 化する予定の取組について取組方針ごとに記述する。

1 2-1-② アクションプランの計画期間内に具体化する取組に関する事項

2 アクションプランの計画期間内に具体化する予定の取組概要について、端的
3 に記述する。

4 取組内容のうち、毎年の進捗評価を行うものについては、様式3・様式4に
5 詳細を記述し、その旨が本項目でもわかるように明示する（例：○○○○（取
6 組の概要）【様式3・4参照】等）。

7 また、取組内容のうち、様式3・4に記述しないもの（本項目のみに記載され
8 る取組）については、具体的な取組内容、実施主体、実施時期、削減見込及び削
9 減される排出部門の別について、記述できる範囲で記述する。

10
11 (記載のイメージ)

12 2-1-① 豊かな森林の再生（森林）の取組方針

13
14

15
16 2-1-② 計画期間内に具体化する予定の取組に関する事項

17 (a) 取組の名称

18 (取組概要)
19 【様式3・4参照】

20 (b) 取組の名称

21 (取組概要)
22 【様式3・4参照】

23 (c) 取組の名称

24 (取組概要 (具体的な取組内容、実施主体、実施時期、削減見
25 込及び削減される排出部門の別について、記述できる範囲で記述))
26

27
28 2-2-① 活力あるモノづくりの街（産業）の取組方針

29
30

31
32 2-2-② 計画期間内に具体化する予定の取組に関する事項

33 (a) 取組の名称

34 (取組概要)
35 【様式3・4参照】

36 (b) 取組の名称

37 (取組概要)
38 【様式3・4参照】

39 (c) 取組の名称

40 (取組概要 (具体的な取組内容、実施主体、実施時期、削減見

1 込及び削減される排出部門の別について、記述できる範囲で記述)).....
2
3

4 **3. 取組体制等**

5 3-1 行政機関内の連携体制

6 3-2 地域住民等との連携体制

7 3-3 教育・研究機関、民間企業等の知的資源の活用

8
9 **参考資料**

10 アクションプランの参考資料として、次の資料を作成し、添付する。

11 (参考資料1) 部門別の削減量の見込みと根拠
12 (様式1、様式2、様式3) により作成

13
14 (参考資料2) 取組内容詳細個票
15 (様式4) により作成。

1 <各様式の記載要領>

2 参考資料

3 本資料は、アクションプランで記述した削減目標、取組内容について、でき
4 る限り詳細の内容を明らかにし、比較可能な形態にすることを目的とする資料
5 であり、記載された削減量及び事業内容について進捗管理を行うものである。
6 把握している限りの内容を記入し、把握していない場合は、当該部分、当該様
7 式の記入は省略して構わない。

8 (共通事項)

- 9 ・各様式の右上欄に自治体名を記入すること。
- 10 ・表示単位未満は四捨五入とすること。
- 11 ・記載例を参照すること。

13 (1) 様式1「温室効果ガスの排出量」

- 14 ・「・・・年」欄には、該当する年を記入すること。
- 15 ・年度による把握の場合は「・・・年度」で記入すること。
- 16 ・①の列には基準年を記載する。前回使用した基準年から変更することも
17 できる。
- 18 ・②列には、基準年の排出係数を基に、現状の数値を記入すること。基準年
19 =現状となる場合は、同じ数値を記入すること。
- 20 ・③の列については、アクションプラン最終年度の目標排出量及び削減量を
21 記入する。
- 22 ・④及び⑥の列には、本アクションプランによる取組等がなかった場合の予
23 測排出総量（BAU）を記入すること。（人口増減及び経済動向を考慮し
24 た予測。国の政策による増減等は含まない。）
- 25 ・⑤及び⑦の列には、それぞれ中期（2030年）、長期（2050年）の目標量を
26 記入すること。（国の政策による増減等を含む。）
- 27 ・(3)代替フロン等については、従来の代替フロン等3ガス（HFCs、PFCs、
28 SF6）に、京都議定書において2013年より新規に対象となるNF3を加え、
29 代替フロン等4ガスを対象としている。ただし、代替フロン等4ガスを把
30 握していない場合は、従来通り代替フロン等3ガスを記入してもよい。
- 31 ・(4)森林吸収量の欄には、吸収量をマイナス（▲）で表示すること。（吸収
32 量が増加すれば、マイナスが大きくなる。）
- 33 ・b欄及びc欄については、基準年比の増減を記入すること。
- 34 ・上段の「地域の排出総量の推移」欄は、同票下欄の各排出量と吸収量の合
35 計（吸収量の▲を加算することで排出量と相殺される）と一致することを
36 基本とする。ただし、一部把握できないもの（空欄）がある場合は、この
37 限りでない。また、各欄個別の数値の把握ができない場合であっても、そ
38 の一部の合計であれば把握できる場合は、適宜欄を組み替え（結合し）て
39 記入すること。
- 40 ・%欄は、小数点第1位までを表記すること。

(参考) 様式1の記載例

様式1 温室効果ガスの排出量			※排出量は基準年の排出係数をもとに算出					黄色のセルに入力	記載例
区分			基準年の排出量	直近の排出量	短期の目標排出量 及び削減量	中期的なBAU排出量	中期の目標排出量 及び削減量	長期的なBAU排出量	長期の目標排出量 及び削減量
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
			2015年	2015年	2023年	2030年	2030年	2050年	2050年
地域の排出総量の推移(計) (1)+(2)+(3)+(4)			15,600,000	15,600,000	13,534,000	17,830,000	10,853,000	19,350,000	7,540,000
	a 排出量	t-CO2	15,600,000	15,600,000	13,534,000	17,830,000	10,853,000	19,350,000	7,540,000
	b 増減率 (基準年比)	%		0.0	▲ 13.2	14.3	▲ 30.4	24.0	▲ 51.7
	c-1 基準年からの増減量	t-CO2		0	2,066,000	2,230,000	▲ 4,747,000	3,750,000	▲ 8,060,000
	c-2 取組による増減量	t-CO2					▲ 6,977,000		▲ 11,810,000
(1) エネルギー起源CO2の部門別排出量	イ) 産業部門		a 排出量	10,300,000	10,300,000	9,120,000	7,570,000	5,520,000	
		b 増減率	%		0.0	▲ 11.5	▲ 26.5	▲ 46.4	
		c 増減量	t-CO2		0	1,180,000	▲ 2,730,000	▲ 4,780,000	
	ロ) 業務・その他部門		a 排出量	1,200,000	1,200,000	950,000			
		b 増減率	%		0.0	▲ 20.8	▲ 100.0	▲ 100.0	
		c 増減量	t-CO2		0	250,000	▲ 1,200,000	▲ 1,200,000	
	ハ) 家庭部門		a 排出量	1,100,000	1,100,000	956,000			
		b 増減率	%		0.0	▲ 13.1	▲ 100.0	▲ 100.0	
		c 増減量	t-CO2		0	144,000	▲ 1,100,000	▲ 1,100,000	
	ニ) 運輸部門		a 排出量	1,440,000	1,440,000	1,170,000			
		b 増減率	%		0.0	▲ 18.8	▲ 100.0	▲ 100.0	
		c 増減量	t-CO2		0	▲ 270,000	▲ 1,440,000	▲ 1,440,000	
ホ) エネルギー転換部門		a 排出量	300,000	300,000	272,000				
	b 増減率	%		0.0	▲ 9.3	▲ 100.0	▲ 100.0		
	c 増減量	t-CO2		0	▲ 28,000	▲ 300,000	▲ 300,000		
(2) 非エネルギー起源CO2, CH4, N2O			a 排出量	1,160,000	1,160,000	1,010,000			
	b 増減率	%		0.0	▲ 12.9	▲ 100.0	▲ 100.0		
	c 増減量	t-CO2		0	▲ 150,000	▲ 1,160,000	▲ 1,160,000		
(3) 代替フロン等4ガス(HFCs, PFCs, SF6, NF3)			a 排出量	100,000	100,000	80,000			
	b 増減率	%		0.0	▲ 20.0	▲ 100.0	▲ 100.0		
	c 増減量	t-CO2		0	▲ 20,000	▲ 100,000	▲ 100,000		
代替フロン等3ガスから4ガスに変更			基準年の吸収量	現状の吸収量	2023年の吸収目標量	中期の吸収目標量	長期の吸収目標量		
(4) 森林等吸収量			a 吸収量	▲ 20,000	▲ 20,000	▲ 24,000	▲ 31,000	▲ 37,000	
	b 増減率	%		0.0	▲ 20.0	▲ 55.0	▲ 55.0	▲ 85.0	
	c 増減量	t-CO2		0	▲ 4,000	▲ 11,000	▲ 11,000	▲ 17,000	
※排出総量以外を目標としている団体も、総排出量を把握している場合は記入すること。									
※③列c-1行には (①列a行) - (③列a行) の値を記入すること。									
※⑤列c-1行には (①列a行) - (⑤列a行) の値を、⑤列c-2行には (④列a行) - (⑤列a行) の値を記入すること。⑦列についても同様。									

1 (2) 様式2「排出総量の削減以外の目標を設定している場合」

- 2
- 3 ・ 排出総量以外を目標としている自治体は記入すること。(当該自治体で様
 - 4 式1を記入した場合であっても、様式2を作成すること。)
 - 5 ・ 「……年」欄には、該当する年を記入すること。
 - 6 ・ 年度による把握の場合は「……年度」で記入すること。
 - 7 ・ ③及び⑤の列には、本アクションプランによる取組等がなかった場合の予
 - 8 測値(BAU)を記入すること。(人口増減及び経済動向を考慮した予測。
 - 9 国の政策による増減等は含まない。)④及び⑥の列には、目標量を記入す
 - 10 ること。(国の政策による増減等を含む。)
 - 11 ・ (1)～(4)欄には、各取組の目標設定により、分類される項目名を記入す
 - 12 ること。その際、様式1の区分を参考にすること。
 - 13 ・ a欄及びc欄には、様式1「温室効果ガスの排出量」を参考に単位を記入
 - 14 すること。なお、削減単位を示せる場合にはc行にこれを記入するものと
 - 15 する。
 - 16 ➤ (例:a欄 1人あたりの排出量、t-CO2/人・年、c欄 1人あたりの削減
 - 17 量、t-CO2/人・年)

(参考) 様式2の記載例

区分			基準年の状況	現在の状況	中期的な状況	中期の目標	長期的な状況	長期的な目標
			①	②	BAU ③	④	BAU ⑤	⑥
			2015年	2015年	2030年	2030年	2050年	2050年
(1) 家庭部門の1世帯 当たり年間CO2排出量	a	1世帯当たり排出量 t-CO2/世帯・年	4.7	4.7	5.0	▲ 2.3	4.4	▲ 8.2
	b	増減率 %		0.0	6.4	▲ 148.9	▲ 6.4	▲ 274.5
	c	1世帯当たり増減量 t-CO2/世帯・年		1.0	0.2	▲ 7.0	0.3	▲ 13.0
(2)	a							
	b	増減率 %		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	c							
(3)	a							
	b	増減率 %		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	c							
(4)	a							
	b	増減率 %		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	c							

※増減率及び増減量は、基準年比の増減を記入すること。

黄色のセルを入力

記載例

1 (3) 様式3「削減見込の推計」

- 2 • 本様式はアクションプラン2-1-②の「アクションプランの計画期間内に
- 3 具体化する予定の取組に関する事項」に記載された取組内容を基本に、短
- 4 期的・中期的・長期的な削減見込を整理する表である。
- 5 • ①には2019～2023年度の各年度の削減見込みを記入すること。
- 6 • 年度による把握の場合は「・・・年度」で記入すること。
- 7 • 左側「取組方針」欄には、各アクションプラン記載の項目番号と取組方針
- 8 を記入すること。取組数が多く欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 9 なお、取組方針の記述が長い場合には、適宜圧縮して記入すること。
- 10 • 左側「取組内容」欄には、各アクションプラン記載の取組内容ごとに1行
- 11 をとって記入すること。なお、1つの取組を細分化している場合には、そ
- 12 の取組内容ごとにさらに内訳の行を設けることも可。
- 13 • 外的要因（自己の努力によって削減を見込むもの以外）による削減見込は
- 14 （z）欄に外書きで記入すること。
- 15 • 各欄個別の数値の把握ができない場合であっても、その一部の合計であれ
- 16 ば把握できる場合は、適宜欄を組み替え（結合し）て記入すること。
- 17 • 小計欄には、各取組内容の削減見込の計を記入すること。
- 18 • 小計欄内の内訳欄には、様式1の各区分を記入し、①～③には当該区分ご
- 19 との削減見込を記入すること。内訳欄が不足する場合は、適宜行を追加す
- 20 ること。なお、各欄個別の数値の把握ができない場合であっても、その一
- 21 部の合計であれば把握できる場合は、適宜欄を組み替え（結合し）て記入
- 22 すること。
- 23 • 小計欄は、内訳欄の計と一致することを基本とする。ただし、一部把握で
- 24 きないもの（空欄）がある場合は、この限りでない。
- 25 • 「総計」欄は、各取組の小計欄の合計となる。ただし、一部把握できない
- 26 もの（空欄）がある場合は、この限りでない。
- 27 • 「資料番号」の列には、細分化した取組内容ごとに、上段から連番を振るこ
- 28 と。ただし、②、③の列において、欄を結合して記入している場合につい
- 29 ては、当該結合後の取組内容ごとに番号を振ること。
- 30 • 「フォローアップ項目」の列には、今後のフォローアップで、レーダーチ
- 31 ャートにおける「C：地域活力の創出」「D：地域のアイデア・市民力」
- 32 「E：取組の普及・展開」の対象事業とするものについて、CからEの項
- 33 目を選択すること。対象外事業については「－」を選択すること。

(参考) 様式3の記載例

様式3 削減見込の推計										黄色のセルに入力	記載例	
取組方針↓	区分	5年間の取組による削減見込①					中期的な削減見込②	長期的な削減見込③	資料番号	フォローアップ項目		
		計画期間を5年間以外にする場合は列を増減すること					(t・CO ₂)	(t・CO ₂)				
		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2030年	2050年				
2-1-① 低炭素社会を実現するストック型都市への転換	小計		9,680	9,680	15,620	15,788	20,624	25,847	49,247			
	内訳	産業部門	0	0	0	0	0	0	0			
		家庭部門	4,680	4,680	10,620	10,788	15,624	25,847	49,247			
	取組内容↓	運輸部門	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	0	0			
	(a) 低炭素街区・省エネ型建築物の普及促進		-	-	-	-	-	-	-		C	
	1. ゼロ・カーボン先進街区形成事業		0	0	1,260	1,428	1,584	2,447	2,447	1-1	C	
	2. スマートコミュニティ創造事業		4,680	4,680	9,360	9,360	14,040	23,400	46,800	1-2	C	
	(z) 外的要因による削減		5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	200,000	350,000			
	2-2-①	小計		0	0	0	0	0	0	0		
	内訳											
取組内容↓												
(a)												
(b)												
(c)												
(d)												
(e)												
(z) 外的要因による削減												
2-3-①	小計		0	0	0	0	0	0	0			
内訳												
取組内容↓												
(a)												
(b)												
(c)												
(d)												
(e)												
(z) 外的要因による削減												
総計			14,680	14,680	20,620	20,788	25,624	225,847	399,247			
	内訳	産業部門	0	0	0	0	0	0	0			
		家庭部門	4,680	4,680	10,620	10,788	15,624	25,847	49,247			
		運輸部門	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	0	0			
	うち外的要因による削減計④		5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	200,000	350,000			

各欄個別の数値の把握ができない場合であっても、その一部の合計であれば把握できる場合は、適宜欄を組み替え(結合し)て記入すること。

各種取組による短期・中期・長期の削減見込の各数値は、様式4(個票)において該当する各数値と一致させること

取組の細区分(1)と(2)に上段から順番を振る(様式4(1)にも反映)

「C」地域活力の創出、「D」地域のアイデア・市民力、「E」取組の普及・展開から該当するものを選択し、「C」~「E」を記入(いずれも該当しない場合は「」)

1 (4) 様式4「個票」

- 2 • アクションプランに記載した取組について記載すること。
- 3 • ①欄には、様式3の資料番号を記入すること。
- 4 • ②欄は、様式3に記載したフォローアップ項目を選択すること。
- 5 • ③～⑤欄は、様式3の取組方針、取組内容、削減見込と一致させること。
- 6 • ⑥欄には、取組内容の場所、主体、時期等について詳細に記載すること。
- 7 特定の地区で重点的に行う取組については、都市・地域におけるその地区
- 8 の位置づけ、都市・地域全域への取組の展開や削減の波及効果について考
- 9 え方等を記述する。計画期間の取組については、本欄に計画期間を通した
- 10 取組の流れを説明した上で、⑧欄に年度毎の取組を記述する。中期的な取
- 11 組及び長期的な取組については、⑦及び⑩欄の説明と整合のとれるよう取
- 12 組内容を記述すること。
- 13 • ⑦欄には、当該取組の削減効果の前提となる事項を記述すること。
- 14 • ⑧欄には各年度の取組内容の詳細について記述すること。
- 15 • ⑨欄には様式3に記載した各年度の削減見込を記入すること。
- 16 • ⑩には各年度の削減見込の積算（⑨の内訳）を記述すること（下図の考え
- 17 方を参照）。
- 18 • ⑪欄には、中・長期的な取組の効果、それぞれの積算根拠をできる限り詳
- 19 細に記載すること。

20

(参考) 様式4 温室効果ガス削減見込及び積算根拠の考え方

例: 毎年1,000世帯に太陽光パネル(4,000kWh/世帯/年)を導入する場合



	⑧各年度の取組み	⑨温室効果ガス削減見込	⑩積算根拠 (⑨の内訳)	(t-CO ₂)
2019年	家庭用太陽光発電の普及促進	1600	(普及世帯数)1,000世帯 ×(単位年間発電量) 4,000kWh/世帯/年 ×(排出係数)0.400kg-CO ₂ /kWh	(1600)
				(0)
				(0)
				(0)
2020年	家庭用太陽光発電の普及促進	3200	(普及世帯数)2,000世帯 ×(単位年間発電量) 4,000kWh/世帯/年 ×(排出係数)0.400kg-CO ₂ /kWh	(3200)
				(0)
				(0)
				(0)
2021年	家庭用太陽光発電の普及促進	4800	(普及世帯数)3,000世帯 ×(単位年間発電量) 4,000kWh/世帯/年 ×(排出係数)0.400kg-CO ₂ /kWh	(4800)
				(0)
				(0)
				(0)

2年目以降も、単年度における削減見込量を記載してください。

削減見込量を、削減要因毎(活動量、原単位等)に分解し、それぞれについての積算根拠を記載。
(例: 家庭用太陽光発電の普及促進
普及世帯数(世帯) × 1世帯当り年間発電量(kWh/世帯/年) × 排出係数(t-CO₂/kWh)

(参考) 様式4の記載例

		黄色のセルに入力		記載例	(参考資料2)
様式4 取組内容詳細個票					
					②フォローアップ項目
					C
①資料番号	1-2	担当部署			
③取組方針	低炭素社会を実現するストック型都市への転換		様式3の「取組方針」と一致させる		
④取組内容	スマートコミュニティ創造事業		様式3の「取組内容」と一致させる		
⑤削減見込み (t-CO ₂)	5年間の取組による効果		中期的な取組の効果		長期的な取組の効果
	~2023年		2030年		2050年
		様式3の「5年間の取組による削減見込み」と一致させる		様式3の「中期的な削減見込み」と一致させる	
				様式4の「長期的な削減見込み」と一致させる	
⑥取組内容の詳細(取組内容、場所、主体、時期等について詳細に記述する。)					
<p>A地区は、工場のコージェネレーション発電により生成した熱を工場に、電気を当該地区に供給することにより工場とまちの共存による効率的なエネルギーの利用が行われている。</p> <p>この地区で実施しているスマートコミュニティ創造事業では、地域の電力を一元的に管理する地域節電所(CEMS:Community Energy Management System)、住宅や事業所など各需要家の電力を計量し地域節電所にデータを送信するスマートメータ、地域節電所と連携しながら需要家の省エネ、ピークカットを実施するBEMS(Building Energy Management System)やHEMS(Home EMS)、FEMS(Factry EMS)を実証事業で導入している。</p> <p>そして、電力の需給バランスに応じて電力料金を一時的に変動させ、需要家が考え、参加することによるピークカットやピークシフトを促す等、地区全体の電力をコントロールすることにより、CO₂排出量を、2005年の市内標準街区と比較して50%削減することを目標としている。</p> <p>また、本取組により、市内で実証実験を実施するための投資が発生すると共に、実証に参画している市内企業の事業拡大による地域経済の活性化を見込んでいる。</p> <p>【実施場所】:A地区 【主体】:XXXX 【時期】:平成XX年度~平成XX年度</p>					
⑦見込みの前提					
<ul style="list-style-type: none"> ・実証を行っているA地区は、環境施設の整備、多様な新エネルギー導入などにより市内の標準的な街区と比較して30%(2005年比)のCO₂削減を達成している。 ・市内の標準的な街区(20XX年)のCO₂排出量原単位は次の通りとする。 業務部門:134kg-CO₂/m²、家庭部門:2,665kg-CO₂/戸 ・2009年のA地区におけるCO₂排出量原単位は次の通りとする。 業務部門:93.6kg-CO₂/m²、家庭部門:1,717kg-CO₂/戸 ・前提となる業務部門と家庭部門の総CO₂排出量は、業務部門の延べ床面積を170,419m²、家庭部門の世帯数を200世帯として算出する。 ・従って、基準となる市内の標準的な規模の街区のCO₂排出量は23.4kt-CO₂とする。 ・2009年のA地区のCO₂排出量は16.3kt-CO₂とする。 ・実証事業による削減見込みは、エネルギーマネジメントシステムの運用により4%、スマートメータによる見える化により6%とする。 					

	⑧各年度の取組み	⑨温室効果ガス削減見込	⑩積算根拠 (⑨の内訳)	(t-CO ₂)
2019年	A地区での導入		(標準街区のCO2排出量) 23,400t-CO2	(936)
	①エネルギーマネジメントシステムの運用		×(削減率)4%=936t-CO2	
	②デマンドレスポンス	(4680)	(標準街区のCO2排出量) 23,400t-CO2	(2340)
	③スマートメーターによる見える化		×(削減率)10%=2,340t-CO2	
			(標準街区のCO2排出量) 23,400t-CO2	(1404)
			×(削減率)6%=1,404t-CO2	
2020年	A地区で上記①～③の継続	(4680)	上記①～③の合算値	(4680)
				(0)
				(0)
				(0)
				(0)
2021年	A地区で上記①～③の継続 市内工業団地に展開	(9360)	上記①～③の合算値 上記①～③の合算値	(4680) (4680)
				(0)
				(0)
				(0)
2022年	A地区で上記①～③の継続 市内工業団地で上記①～③の継続	(9360)	上記①～③の合算値 上記①～③の合算値	(4680) (4680)
				(0)
				(0)
				(0)
2023年	A地区で上記①～③の継続 市内工業団地で上記①～③の継続 海外への展開	(14040)	上記①～③の合算値 上記①～③の合算値 上記①～③の合算値	(4680) (4680) (4680)
				(0)
				(0)
2024年以降	2030年:計5地区に展開	(23400)	上記①～③の合算値 × 5地	(23400)
				(0)
				(0)
				(0)
				(0)

2年目以降も、単年度における削減見込量を記載してください。

⑪中・長期的な排出量の削減見込量の算定根拠・詳細説明

- ・スマートコミュニティ創造事業の成果はパッケージ化して他地域に展開する計画である。
- ・展開先の地域の特性によりCO2排出量の削減効果は異なるが、ここではA地区レベルの地域を平均と仮定し、2030年、2050年の展開地域数を想定する。

〈2030年までの効果〉

地区当たりの削減効果 4,680t-CO₂/地区 × 展開地区数 5地区 = 23,400t-CO₂

〈2050年までの効果〉

地区当たりの削減効果 4,680t-CO₂/地区 × 展開地区数 10地区 = 46,800t-CO₂